

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【針ヶ谷小学校】

学力向上 アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する 資質・能力	学習スタイルを自己コーディネートする資質能力
↓	
実施する学力向上策 【時期・頻度】	<small>①教師が単元を通じた教材研究の工夫を行う中で、一斉指導と探究としての個別最適な学習の時間を効果的に設定していくようにする。学校の課題として、個人差が大きいこともあるため、その中で個別支援の時間を多く作れるようにしていく。(通年) ②自己コーディネートというものは、そもそも、児童がすべて自由に行動することではないため、学びのゴールを明確化した上で、教師側から選択肢を用意していく。その選択肢により、児童が学びを深めたり、振り返りにより、自己内省を行ったりして、児童のメタ認知能力を高めていく。(通年) ③児童への問いかけの工夫をし、児童自身が自分で考えて行動できるようにする。また、さまざまな場面でモデルを用意し、それらも選択肢として取り入れることで、児童の安心感や選択肢の幅を広げることにつなげていく。(通年)</small>

ざらざら(構円)

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握)
↓		
今年度の成果と 次年度の課題		結果提供(2月)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果		調査の振り返り(4月)
↓		
結果から考えられる 児童生徒の実態		調査結果分析(7月)

④	さいたま市学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果		さいたま市学習状況調査(5月) <小1~中3>(11~12月)
↓		
結果から考えられる 児童生徒の実態		①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト等の分析・活用 ③中間評価を経た取組 ④調査結果を活用した授業

③	中間評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	調査結果分析(7月) 結果分析(管理職・学年主任等) 児童生徒の実態把握) 夏期職員研修等
↓		
学力向上策の 見直し		中間評価(9月) 課題・策の見直し

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

教育研究所